

報道解禁（文化審議会文化財分科会終了後）

テレビ・ラジオ・インターネット

令和8年7月17日（金）17時以降

新聞

令和8年7月18日（土）朝刊

担当課：福岡県教育庁教育総務部
文化財保護課

直通：092-643-3875

内線：5388

担当：松本

国登録有形文化財（建造物）の登録について

- 国の文化審議会（会長 ひびのかつひこ 日比野克彦）は、令和8年7月17日（金）に開催される同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに163件の建造物を国登録有形文化財に登録するよう文部科学大臣に答申する予定です。
- この中で福岡県関連の国登録有形文化財（建造物）は7件です。官報告示後、福岡県内の国登録有形文化財（建造物）は計262件となる予定です。

〔答申予定の国登録有形文化財（建造物）〕

せきたんかいかん

石炭会館

計1件（北九州市若松区本町1丁目985-5）

せんえいじほんどう

千榮寺本堂

計1件（久留米市寺町21他）

こじまけじゅうたくおもや

児嶋家住宅主屋・米蔵・門及び塀

こめぐら

もん

へい

計3件（太宰府市吉松3丁目443他）

きゅういつしんろうおもや

旧一心楼主屋・表門及び袖塀

おもてもん

そでべい

計2件（直方市大字山部1402-35）

【本資料に関する問合せ先】

福岡県教育庁教育総務部文化財保護課（担当：松本将一郎） 電話 092-643-3875

＊本資料の写真画像提供を御希望の方は、上記連絡先にお問い合わせください。

【石炭会館に関する問合せ先】

北九州市都市ブランド創造局総務文化部文化企画課（担当：塚本育恵） 電話 093-582-2391

【千榮寺に関する問合せ先】

久留米市市民文化部文化財保護課（担当：神保公久）

電話 0942-30-9322

【児嶋家住宅に関する問合せ先】

太宰府市教育委員会文化財課（担当：木村純也）

電話 092-921-2121

【旧一心楼に関する問合せ先】

直方市教育委員会文化・スポーツ推進課（担当：田村悟）

電話 0949-25-2326

〔国登録有形文化財（建造物）の説明〕

せきたんかいかん
石炭会館

所在地	福岡県北九州市若松区本町 1 丁目 985-5
構造形式（建築年代）	木造二階建、瓦葺、建築面積 201 m ² （明治 38 年）
登録基準	基準（一）国土の歴史的景観に寄与しているもの

概要

石炭会館は、北九州市若松区の洞海湾^{どうかいわん}の北岸に位置する。若松は江戸時代から筑豊炭田で産出された石炭の積出港として繁栄し、明治時代には港湾と鉄道の整備によって陸上・海上輸送の拠点となり、全国屈指の石炭積出港として発展した。石炭会館は、明治 38 年（1905）に若松石炭商同業組合事務所として建設され、その後、昭和 19 年（1944）に社団法人若松石炭協会となり、昭和 48 年（1973）からは株式会社石炭会館の事務所として使用されている。

建築は、木造二階建、寄棟造^{よせむねづくり}棧瓦^{さんかわらぶき}葺。矩形平面の正面中央にドリス式オーダー風柱を用いた玄関ポーチを付す。一階外壁に石造風の目地^{めじ}を切り、一、二階とも縦長窓を整然と並べる。石炭産業による往事の繁栄を今に伝える。

石炭会館は、若松に現存する最古の洋風建築であり、若松の歴史的景観に寄与する建造物として評価された。

<参考>

「国登録有形文化財（建造物）の登録基準」

建築物、土木構造物及びその他の工作物のうち、原則として建設後 50 年を経過し、かつ、次の各号のいずれかに該当するもの。

- （一）国土の歴史的景観に寄与しているもの
- （二）造形の規範となっているもの
- （三）再現することが容易でないもの



図1 石炭会館位置図（国土地理院地図を基に作成）



写真 1 石炭会館正面外観
(北九州市提供)



写真 2 石炭会館一階玄関ホール
(北九州市提供)



写真 3 石炭会館一階玄関天井飾
(北九州市提供)

〔国登録有形文化財（建造物）の説明〕

せんえいじほんどう 千榮寺本堂

所在地 福岡県久留米市寺町2-1 他

構造形式（建築年代／改修年代）

鉄筋コンクリート造平屋建、瓦葺、建築面積 179 m²（昭和 34 年／令和 6 年改修）

登録基準 基準（二） 造形の規範となっているもの

概要

千榮寺は、久留米城跡東方の寺町に建つ曹洞宗寺院であり、山号を徳光山と称す。
千榮寺は、久留米藩主有馬豊氏より寺地を与えられ久留米城下町の寺町に創建された。
また株式会社ブリヂストンの創業者である石橋正二郎を輩出した石橋家の菩提寺で、昭和 34 年（1959）に石橋正二郎の寄進によって千榮寺本堂が新築された。設計は久留米市出身の建築家・菊竹清訓、施工は柿原建設である。

本堂は、鉄筋コンクリート造平屋建、長方形平面、山形ラーメン構造で、正面に列柱廊を配す。壁は色目地を用いたフランス積風煉瓦貼で、縦長窓、丸窓を配し、屋根は切妻造妻入で鬼瓦、相輪を載せる。

千榮寺本堂は、菊竹清訓の設計になる教会堂風の寺院建築である。郷里である久留米に現存する菊竹清訓の初期作品であり、造形の規範となっているものとして評価された。



図1 千榮寺本堂位置図（国土地理院地図を基に作成）



写真 1 千榮寺本堂外観
(久留米市教育委員会提供)



写真 2 千榮寺本堂内観
(久留米市教育委員会提供)



写真 3 千榮寺本堂内観
(久留米市教育委員会提供)

〔国登録有形文化財（建造物）の説明〕

こじまけじゅうたくおもや こめぐら もん へい 児嶋家住宅主屋・米蔵・門及び塀

所在地 福岡県太宰府市吉松 3 丁目 443 他

構造形式（建築年代／改修年代）

主屋 : 木造平屋一部二階建、瓦葺、建築面積 217 m²（明治後期／昭和 35 年・昭和 40 年代改修）

米蔵 : 土蔵造一部二階建、瓦葺、建築面積 65 m²（明治 26 年）

門及び塀：門 木造、瓦葺、間口 1.5m（明治後期／昭和 60 年改修）

塀 木造、瓦葺、総延長 17m（明治後期／昭和 60 年改修）

登録基準

主屋 : 基準（二）造形の規範となっているもの

米蔵・門及び塀 : 基準（一）国土の歴史的景観に寄与しているもの

概要

児嶋家住宅は、太宰府市吉松に所在する。敷地は特別史跡水城跡の西方の丘陵地の麓に位置する。児嶋家は江戸時代には吉松村の庄屋を務めた旧家で、明治時代には水城村村長を務めた児嶋卯平を輩出した。

主屋は、明治後期の建築で、木造平屋一部二階建、入母屋造^{いりもやづくり}棧瓦葺^{さんかわらぶき}。外壁は真壁造^{しんかべづくり}漆喰塗^{しつくいぬり}。正面に式台玄関^{しきだいげんかん}を設け、西に土間、東に六室を配す。17 畳半の座敷は長押^{なげし}を廻し床の間、床脇^{とこま}、付書院^{とこわき}を備える。重厚な外観と瀟洒な意匠が調和する。

米蔵は、明治 26 年（1893）の建築で、敷地の北西隅、主屋の西側に東面して建つ。土蔵造一部二階建、棧瓦葺^{どぞうづくり}で戸口に庇^{とぐち}を付す。外壁は漆喰塗^{しつくいぬり}で腰は海鼠壁^{なまこかべ}とし軒に鉢巻^{はちまき}を廻す。一階は土間の一室で、北側二間半に二階を設ける。小屋組は和^こ小屋^{やぐみ}で二段^{わごや}に梁^{はり}を架ける。長大な蔵が往事の繁栄を伝える。

門及び塀は、主屋と同時期の明治後期の建築で、主屋の南側、座敷前の庭を画し矩折れに配する。切妻造^{きりつまづくり}棧瓦葺^{しつくいぬり}の門は西面し、板戸を吊る。塀は真壁造、棧瓦葺^{しんかべづくり}で、切石基礎^{きりいし}に土台を載せ、下部を漆喰塗、上部を格子とし、石柱の控^{きそ}柱^{ひかえばしら}の間を丸鋼^{まるこう}で繋ぐ。格式ある表構えを形成し、歴史的景観の形成に寄与する。

児嶋家住宅主屋は、造形の規範となる建造物として評価された。また米蔵と門及び塀は、歴史的景観に寄与する建造物として評価された。



図1 児島家住宅位置図（国土地理院地図を基に作成）



写真 1 児嶋家住宅主屋
(太宰府市教育委員会提供)



写真 2 児嶋家住宅米蔵
(太宰府市教育委員会提供)



写真 3 児嶋家住宅門及び堀
(太宰府市教育委員会提供)

〔国登録有形文化財（建造物）の説明〕

きゅういっしんろうおもや おもてもん そでべい 旧一心楼主屋・表門及び袖塀

所在地 福岡県直方市大字山部 1402-35

構造形式（建築年代／改修年代）

主屋 : 木造二階建、瓦葺、建築面積 351 m²、門付（大正前期／昭和中期増築）

表門及び袖塀：表門 木造、瓦葺、間口 2m（大正前期）

袖塀 木造、瓦葺、総延長 6.6m（大正前期）

登録基準 基準（一）国土の歴史的景観に寄与しているもの

概要

旧一心楼は、直方市山部の旧二字町遊郭の角地に位置する妓楼建築である。二字町遊郭は筑豊での石炭産業の発展を背景に、明治 41 年（1908）に貸座敷営業の許可を得て設置された。一心楼は大正 5 年（1916）に創業され、現存する主屋と表門及び袖塀は、開業と同時期の大正前期に建築されたものである。一心楼は、昭和 33 年（1958）に廃業後、共同住宅として転用され、幾度か所有者が変わり現在に至る。

主屋は、二階建^{さんかわらぶき} 瓦葺で東西に並べた入母屋造^{いりもやづくり}の建物を繋ぎ、北面中央に玄関を設ける。北西隅の土間に面して顔見せ部屋を配し、その境に高欄^{こうらん}を設けて装飾する。内部は中廊下^{なかろうか}沿いに多数の座敷を配する。

表門及び袖塀は、主屋正面中央に位置し、二棟の入母屋造建物間の前庭を画する。門は腕木門^{うでぎもん} 棧瓦葺^{こしだかこうしど}で腰高格子戸を立てる。欄間は漆喰塗^{らんま しっくいぬり}で木瓜形^{もっこうがた}の窓を設ける。袖塀も棧瓦葺で、腰下はモルタル洗出し仕上^{あらいだ}、上部は漆喰塗に木瓜形窓を設ける。

旧一心楼は、旧二字町遊郭に現存する唯一の妓楼建築であり、当地区の歴史的景観を伝える建造物として評価された。

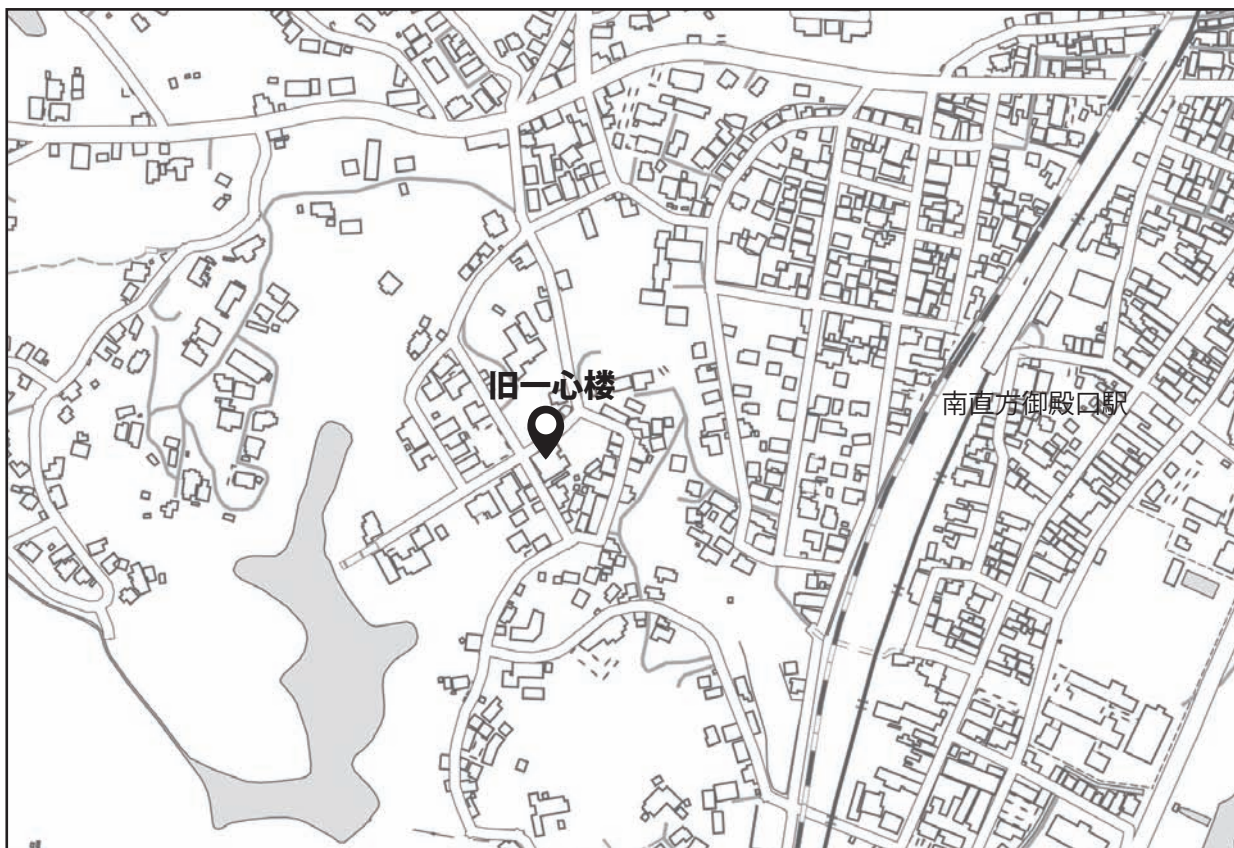
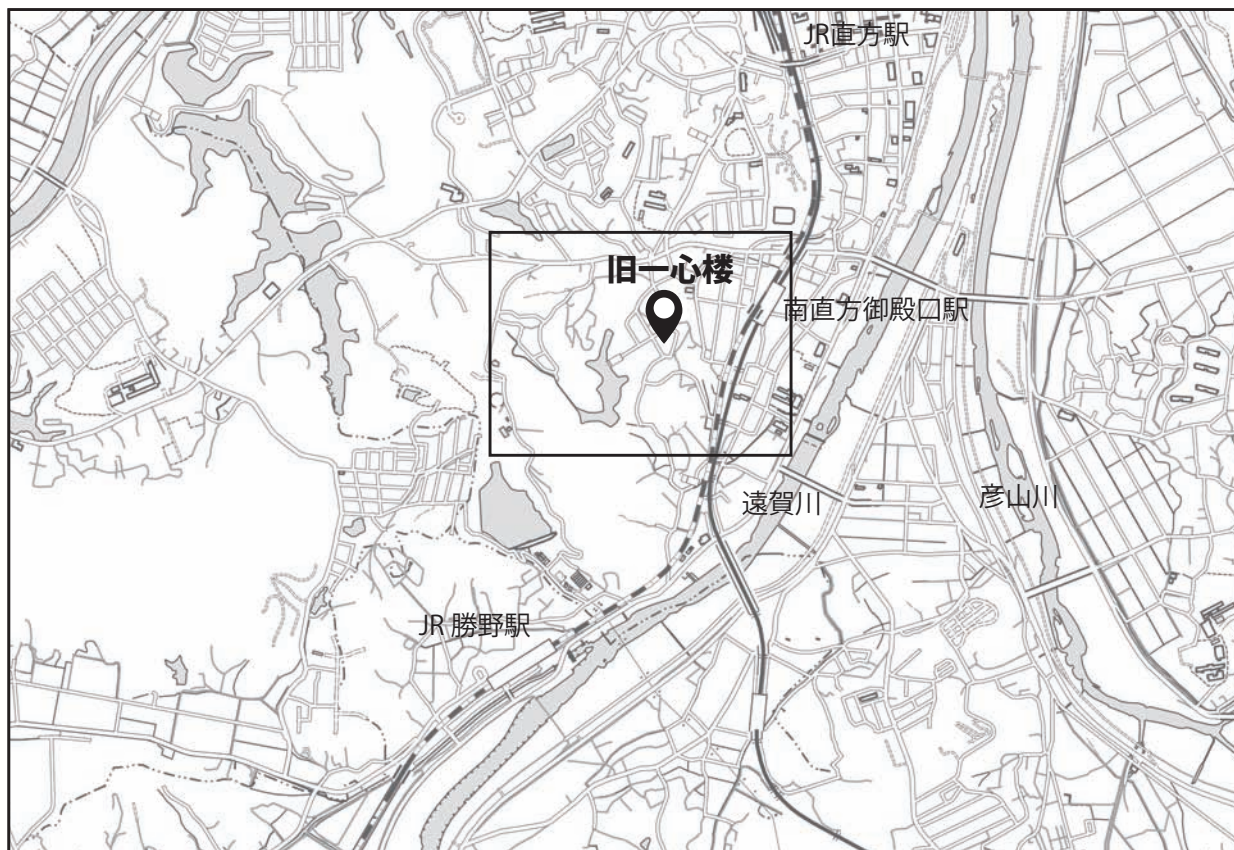


図1 旧一心楼位置図（国土地理院地図を基に作成）



写真1 旧一心楼外観
(撮影：小島健一)



写真2 旧一心楼主屋二階広間
(撮影：小島健一)



写真3 旧一心楼表門及び袖塀
(撮影：市原猛志)